

弔辞 トマス・インモース師の 遺徳を忍んで

渡邊 学

WATANABE Manabu

本研究所ともゆかりの深い上智大学東洋宗教研究所長をかつて務められ、日本ユングクラブ初代会長であったトマス・インモース先生が、2001年10月20日に出身地のスイス・シュヴィーツ州で心臓発作のため83歳で亡くなられました。先生のご冥福をお祈りするとともに故人の遺徳を忍びたいと思います。

インモース先生は、1918年9月15日にシュヴィーツ州のシュヴィーツで生まれた生粋のスイス人でした。青年期にカトリックの司祭職を志して、スイスのベトレヘム外国宣教会に入会されました。シューネック神学大学で課程を修められてから、中国での宣教を指示されて、ロンドン大学で中国文学と英語を学ばれましたが、当時の政治状況から中国大陸に渡ることがかなわず、当時の仙台司教の要請で、1951年1月5日、先生が32歳のときにはじめて来日されました。先生は来日後、日本語をほとんど一人で学ばれたのでした。

先生は、同宣教会の本部がある盛岡に七年間滞在され、東北の古い文化や儀礼と故郷のスイスのそれらとの共通点を見出して大きな感銘を受けました。ユングの集会的無意識の元型に眼を見開かれたのもそのころだったようです。

その間、岩手大学や東北大学で教鞭を執られてから、1958年に上智大学に助教授として赴任されました。その後、1959年から1960年にかけてチューリッヒ大学でドイツ文学を研究され、中国文学に関する見識を生かして、F・リュッケルトの『詩経』理解に関する研究で文学博士号を取得されています。

1962年に上智大学に復職され、1964年に文学部教授になられ、長年、教鞭を執られました。

インモース先生は、ドイツ文学の教授でありながら、きわめて幅の広い関心をお持ちになり、とりわけ能をはじめとする日本文化に深い造詣をお持ちでした。

1969年には梅若万三郎氏と梅若能楽団を率いてルツェルン音楽フェスティバルに参加し、ノイシャテル、ブリュッセル、パリで公演や実演や展覧会を行って、能をヨーロッパに紹介されました。同じく、1972年には宝生英雄氏と宝生能楽団を率いてルツェルン音楽フェスティバルに参加し、講演や実演を行われました。

さらに、ジャーナリズムの分野でも活躍され、1974年には、スイス政治通信社等、ドイツ語圏の各紙の東京特派員を兼務され、日常的に健筆をふるわれました。

1979年には、上智大学東洋宗教研究所長に就任されました。そして、インモース先生は、日本ユングクラブの発起人となり、設立を呼びかけました。同じく同年、心臓手術を受けながら病に屈することなく、1980年に創立とともに初代会長に就任されたのでした。先生の心づもりでは、ユング心理学が日本に定着するための橋渡しの役目を果たすのが目的でした。当初、日本ユングクラブがヘルベチア財団から出版助成を受けられたのも、インモース先生の働きかけのおかげでした。

1985年にはウィーン大学の客員教授として宗教学を講義されました。

また、特筆すべきことに、インモース先生は各国から榮譽を受けられ、1983年にオーストリア共和国大栄褒章、1988年にはスイス国シュヴィーツ州文化章、さらに、1989年には日本政府から勲四等旭日小綬章を受章されました。

1998年にはインモース先生の傘寿を記念し、スイス大使を招いて、上智大学でシン

ポジウム「スイス その変貌と持続性」が開催されています。インモース先生の日本とスイスの交流に尽くした力はそれほどまでに大きかったのだと思います。

インモース先生の人生は、多面性を絵に描いたようなものであったと言えるかと思えます。カトリックの司祭であり、詩人であり、ユング心理学に示唆を得たドイツ文学者にして中国学者と日本学者でもあり、ジャーナリストとしても活躍されていました。何よりもすばらしいのは、インモース先生がこれらの多面性をすべて味わい尽くして楽しんでいらしたということです。私は先生からいそがしいという言葉聞いた記憶がありません。大学でドイツの演劇の教鞭を執り、週末ともなれば各地の祭りを訪れ、何冊もの詩集や小説を出版し、特派員として日常的に日本から独文の記事を発信する毎日を過ごしていらっしやいました。子どものような輝く目で世界を眺めてたんのうし、それを文章に表すのが日課だったと言えるでしょう。

インモース先生はカトリック司祭として独身を通されましたが、先生はその独身生活を真に創造的なものとして使い尽くし、生かしきられたように思われます。

私をはじめてインモース先生とお会いしたのは今から二十数年前の1976年のことでした。当時、インモース研究室は、同時にスイス文庫として開放されていて、私はユングの原書を閲覧するために足繁く通ったのでした。インモース先生は、20歳になったばかりの私を温かく迎え入れてくださり、その後もいろいろとご指導下さいました。

1980年に日本ユングクラブを創立するときのいきさつを思い返すと、当時、私は友人たちと上智大学でユング研究会を開催していたのですが、カント哲学に関する修士

論文の執筆に取りかからなければならない時期になり、そろそろ止めようかと他のメンバーとも話し合っていた矢先でした。ところが、インモース先生から日本ユングクラブを立ち上げるので研究会のメンバーにも協力してもらいたいと要請があり、一転して私たちは事務局を引き受けることになったのでした。

結局、この決断が私の人生を変えることになったといっても過言ではないと思います。当初、ユングを研究することは趣味の領域に近かったのですが、私はユング研究

で学位を取得することになったのですから。その意味で、インモース先生に対しては感謝しても感謝しきれないといった気持ちでいっぱいです。その後も挨拶状を差し上げるたびに丁寧なお返事を書いてくださり、私のことを温かい目で見守ってくださり、節目ごとに励ましてくださいました。

最後に、インモース先生のご冥福をお祈りして筆を置きたいと思います。

わたなべ・まなぶ
本学総合政策学部教授
本研究所第一種研究所員